

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102828		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	グループホームコスモス		
所在地	岡山市北区田中109－112		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370102828&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成23年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人 敬友会では、援助を受ける皆様の「生活の継続性」と「自己決定」を尊重することを基本理念とし、その実現のため、①「普通の生活」を続けていけるよう支援します ②価値ある生活を送っていただくために支援します ③自分が望むことを決めるのは自分であるべきです ④私たちは皆様の「力」を信じます ⑤社会参加を支援します という5つの行動理念を掲げています。入居者の皆様の今までの生活を大切にし、グループホームに入居しても自宅で暮らしていたような当たり前の生活を送っていただきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「生活の継続性」と「自己決定」の尊重を理念に、利用者・職員がお互いに自分の持ち味を生かして、自然体で一つの家族のように過ごしている。利用者一人ひとりの個性を重視し、興味のあることやでできることに着目し、経験や残存機能を生かした取り組みで生活に張りをもたらせている。職員とゲームで対戦する人、一緒に家事をする人、ゆっくりとテレビを観てくつろぐ人と、様々な過ごし方をしている。地域住民との関係性は良く、町内会長を中心に多方面で協力も得られている。法人全体では、キャリアアップのための体制が整えられており、職員のやる気を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人研修をはじめ、勉強会等機会あるごとに理念を確認し、職員全員が理解していけるように努めている。	理念を目につく位置に掲示し、研修会等で機会あるごとに確認し合っている。理念を実現するために、具体的な年間目標を設定して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域の夏祭り、公園の掃除に参加し、地域との交流を深めれるように努めている。	公園の清掃や地域のお祭りなどの行事に参加したり、運営推進会議等を通じて地域住民との交流が図られている。中学校の体験学習やボランティアの受け入れなども積極的に行っている。町内会長が協力的で、良い関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りや掃除に参加したり、町内の回覧板にてコスモス新聞を回していただき、地域の方に理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、町内会長や家族、民生委員の方にもお越しいただき、意見やご要望を頂けるように取り組んでいる。	地域住民や利用者・家族が参加して、2か月毎に開催している。毎回、参加者から感想や次回のテーマについての要望を聞き、サービス向上に向けた取り組みをしている。口腔ケアや薬品のことなど、テーマごとに専門家を招いて話を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの問い合わせや提出書類などには迅速に対応するように心がけている。	地域会議に出席したり、必要な情報の交換はタイムリーに行うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。運営推進会議開催時には、その都度案内状や電話で出席を依頼しているが、開催が土曜日ということもあり市職員の参加はない。	運営推進会議に市の職員が出席することの意義について考えていただけるよう、根気強く働きかけをしていかなることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については道の交通量が多くしかたなく行っている。ただ、リビングの窓より庭や駐車場に出ることは出来るようにしている。外に出たいと言われる方に対しては、その都度職員と共に外出している。	玄関は、道路に面しているため施錠しているが、帰宅願望のある人や外に出たい希望がある時にはその都度対応している。拘束にあたる行為は見当たらなかった。言葉による拘束についても、気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催している。また、虐待について勉強会などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が必要としていることを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の中で利用者や家族に説明し、質問に対してもご理解いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、ケアプランの説明にご要望をお聞きし、ご要望にそえるように努めている。	面会時や運営推進会議等、機会あるごとに利用者や家族の意見を積極的に聞くようにしている。「ご意見・ご要望」シートがあり、聞き出した意見は、対応の方法を検討して記録に残し、職員間で共有化を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際や申し送りの時に職員の意見を反映できるように努めている。	職員から出された意見は、リーダー会で主任から上に伝えられたり、主任の権限で可能なことには対応するようにしており、職員も積極的に意見を出し合っている。年1回、主任との面接があるが、日ごろから何でも言い易い環境づくりもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績をみとめキャリアアップ研修に参加し、資格がとれるように援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や外部内部ともに研修に参加し、キャリアアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や他のユニットの合同研修に参加し、広い視野で学ぶ機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時、入居後に入居者の要望や不安に思っていることを定期的にお聞きし、職員全員がニーズを把握できるようにケアプランに記載している。 ・ご入居者一人一人に担当職員をつけ、より注意し、要望を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に度々家族とお話をさせていただき、ご要望や不安に思っていることをお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のご要望をお伺いし、何を必要としているのかを見極め、支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを生活の場として考え、入居者が今までされていたことをグループホームでも実践していけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会をお願いし、家族と過ごす時間を出来るだけとっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アクティビティーとしてよくお祭りに行かれていた神社や商店街など、行けるように外出の援助をしている。	入居までの生活の様子を聞き出し、個別に必要な支援を検討している。一人暮らしだった利用者で自宅が気になっている方には、2～3か月毎に帰宅を支援したり、今まで利用していた商店や美容院に行く機会も設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が仲良く話が出来るように、ソファやこたつの配置を考えたり、職員が間に入り、話題の提供をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後にお手紙を出したり、施設に面会に行かせていただいている。 ・お亡くなりになられ、1周期には写真とともにお手紙を書いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生活されていたスタイルを出来るだけグループホームに入居しても続けていけるように気をつけている。	日常の会話の中から思いや意向を聞き出し、可能な限り実現していくことを目指している。利用者一人ひとりの思いは掲示板やノートにびっしり書き込まれており、日々の支援にとりこまれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を、本人や家族に細かく伺い、また入居前のサービス事業所にも情報提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在できる能力に対して、ケアプランに記入し、過剰な介護をしないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と十分にお話を聞き、入浴拒否など家族に協力していただき一緒にケアをさせていただいた。	毎月2回、ケアカンファレンスが開催されており、担当者を中心に職員全員で検討している。家族からも意見を聞き、内容によっては家族に協力も得ている。2か月毎に見直しの書類を作成し、家族や本人の同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を細かく記入し、朝・夕の申し送りを行い、介護日誌にも記入し、職員全員が目を通すようにしている。また、カンファレンスにて再度確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人の状態やニーズに対応できるように努力しているが、多機能化といわれると難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・NPOのボランティアサービスにお願いし、歌や民謡に来ていただいている。 ・地域の理美容院の元に訪問していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人の希望されるかかりつけ医にお願いしている。 ・往診可。 ・受診は家族が同行できないときには職員が対応している。	本人や家族の希望する医療機関への受診を支援しており、家族が対応できないときには職員が送迎もしている。状態に変化があれば、24時間対応が可能な医療機関の確保ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こうなんクリニックのかかりつけ医にその都度相談し、支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	度々面会に行き、家族より情報を伺ったり、病院関係者とも情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に聞き、グループホームで出来ることを家族に相談している。	入居時には、家族の意向を聞いているが、変化があればその都度家族と話し合いをしている。重度化して継続した医療が必要な時には医療機関に入院となるが、終末期でホームでの看取りを希望されれば、家族と協力しながら支援をしている。現在までに数人の看取りも経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアル作成 ・年2回の訓練を行っている。	年2回の防災訓練には、利用者も全員参加している。スプリンクラーも設置されている。訓練には、町内の消防団や消防署も参加している。町内会長を通して、地域住民から協力が得られるような体制も作られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の個性を大切にしてその人の生活リズムに合わせている。また、職員の言葉掛けが失礼にならないように十分注意している。	利用者一人ひとりのできること、今望んでいること、興味のあることを見きわめ支援している。利用者の性格に合わせた言葉遣いで、ねぎらったり励ましたりしている。様々な場面で自己決定を尊重した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かいことでも本人に決定できるようにしている。例えば服を選んだり、飲み物を選んだり、入浴の時間であったり、トイレの時間であったりと本人の思いを大切にしていきたいと思っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者の要望を優先している。その日、その時の状況にあわせ買い物や外出等入居者の楽しみを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入浴時には自分で服を選んでいただいている。 ・外出時や行事の時には希望者にはお化粧をしたり、2～3ヶ月に1度は化粧ボランティアの方にフェイスマッサージをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員とともに調理や後片付けまで一緒に 行っている。 ・好き嫌いを配慮しながら食べやすい形態にしている。	食材は業者から届けられるが、利用者の希望する物を採り入れたり、外食を楽しんだり、手作りのおやつを楽しんだり、食に楽しみが持てるように工夫がみられる。身体状態に合わせて形態を変えたり、トロミを付けるなどの配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日のカロリー摂取量や水分量には十分に注意している。 ・月に1回の体重測定を行い、変動をみて医師と相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・1日4回口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。 ・月に1回歯科医に往診をもらい、寝たきりの方の口腔ケアを行っていただき、日常の口腔ケアのアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排尿パターンを理解し、本人にあった時間にさりげなく誘導するようにしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンをつかみ、1日のスケジュール表に支援の時間を入れて対応している。各居室にトイレが設置されており、プライバシーにも配慮しながら自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1日の水分量や青汁、雑穀米、オリゴ糖、オクノスなど便秘に有効なものを摂取していた。 ・朝のラジオ体操や入浴時の腹部マッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を行っており、希望の時間に入浴できるようにしている。	利用者の半数がリフト浴を利用している。入浴は、できるだけ本人の希望に沿った支援をしており、毎日入る方や、夕食後に入る方もいる。暖房など、浴室の環境にも配慮がみられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ外出などの日常の活動を促し、生活のリズムを整えている。寝付けない方にはホットミルクを出し、職員と話をしたり自然に休めるように促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の時には必ず名前と薬の数を確認し、飲み込みまで確認している。薬の効能や副作用を個人ファイルにとじ、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・外出時や行事の時には必ず与具を振り、個人のアルバムに入れ、楽しみに見ている。 ・行事の時にはノンアルコールビールをお出し、好きな方に飲んでいただいている。 ・本人の能力や生活歴に合わせ、調理や生		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族にお伺いし、昔よく行っていた場所や家に外出できるように支援している。	利用者一人ひとりの行きたい所を把握し、個別の支援を心がけている。日々の買い物などにもよく出かけている。屋外には花壇や菜園が設けられており、外での活動もしやすい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者3名は自分でおこずかいを管理されている。希望時には買い物やされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には自由に電話や手紙を出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を大切にして、お雛様や節句、クリスマス、お正月と飾りつけを行っている。 ・週に1～2回利用者に生け花をしていただいている。	共用空間には、木目調の家具を基調に、昔を懐古できるような家具や本なども配置されている。利用者の生けた花や飾り付けで季節感も出している。回廊式の廊下には、少人数でくつろげるようにソファが配置してある。中庭に出やすく、お天気の良い日には日向ぼっこもできる環境である。	利用者のより快適な生活のために、室内や水回りの清潔保持に留意した環境整備を望む。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下などにちょっと座ってくつろげるスペースを作っている。 ・中庭にも自由に出て、日光浴を楽しんでいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にはご自宅ですわられていた愛用の物を持ってきていただけるように話をし、揃えて貰う。 ・ご家族の写真やお位牌を持ってこられている方もいる。	フローリングの床に畳やカーペットを敷き、家族とも相談しながらその人に合わせた環境づくりをし、個性的で過ごしやすい居室となるよう配慮している。家族の写真で飾られた部屋や、仏壇、冷蔵庫を持参している方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内で自分で歩けるようにベッドや家具の配置に気をつけている。		